

肢体高等部

外国語科 (中学部段階)

Knowing and explaining about Parasports

身に付けたい資質・能力

コミュニケーションを図ろうとする態度や素地
となるもの



構想、指導案検討で大事にしたこと



- ・馴染みのあるボッチャのゲーム場面を設定し、思わず英語をしゃべってしまう状況づくり
- ・提示するフレーズは汎用性のあるものを厳選 (yes!, almost, oh no! など)
- ・ゲームの中で英語を使ってやりとりする時間が十分に取れるよう、活動はシンプルに!

ターニングポイント

設定にピントを合わせてつくっていくうちに、
体育科の授業に……。教科のねらいをもう
一度確認して、外国語科の学びへ

本時の授業

本時の探究課題



Let's play bocce and
communicate in English

- ・いい場所にボールを投げることができて“ Yes ! ”
思わず自分の気持ちを英語で表現
- ・“ Your turn ” で相手に伝わると、徐々に大きい声で
伝えられるように!

新井教授の助言



「つい英語が出てしまう場面」と「英語を使わざるを得ない場面」を意図的につくる

知的障害のある子どもの外国語科も、年間を通して子どもに何を学ばせるのか「一言英語のレパートリー」を整理してシラバスを作成する

この単元での深い学び

ボッチャを通して、言葉(英語)で気持ちを表現し、伝わる楽しさや一体感を感じる

授業者の学びと授業改善のポイント

英語は関わるための手段の一つ

多少不完全でも、相手に伝えようとするのが大切。言語は教えるものではなく、伝えたい思いからはじまるものであると確認した。

コミュニケーションの基盤をはぐくむための仕掛け

どんな言葉を使うとよいか、生徒の思考を予想して意図的に活動を設定し、表現したり伝え合ったりすることの良さが実感できる外国語科の授業づくりをしていく。



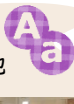
知的高等部

外国語科 (中学部段階)

My Summer Vacation

身に付けたい資質・能力

コミュニケーションを図ろうとする態度や素地
となるもの



構想、指導案検討で大事にしたこと



- ・既習の過去形を使って、自分の体験を英語で伝える題材は? ……「夏休みの出来事スピーチ」
- ・友達のスピーチを興味をもって聞くために“Ask 1 question”の場を設定
- ・はじめにALTにスピーチをしてもらうなど、緊張せず話せる展開と雰囲気作り

ターニングポイント

文法にこだわると、生徒がしゃべられなくなってしまふ……。相手に伝わるなら“単語”でもいい

本時の授業

本時の探究課題



夏休みの思い出について
クラスメイトやALTに英語で伝えよう

- ・過去形のフレーズを活用しながら、英語で発表
“I saw a movie.” “I went to Hiroshima.”
“I ate ramen.” “I enjoyed Karaoke.”
- ・友達のスピーチをしっかり聞いて、Ask 1 question
Q “Where is it ramen?”
A “…where, where (考えを巡らせる沈黙)
〇〇〇〇(ラーメンの店名)!!”

新井教授の助言



英語で話すことで通じ合うことの楽しさや相手と繋がれた実感など、外国語そのもののおもしろさ・魅力は何か考える

「英語コミュニケーション」だけでなく、高等学校でも行われている「論理・表現」を意識した学習内容を考える
とよい

この単元での深い学び

自分の経験したことを伝えることで、英語でのコミュニケーションのおもしろさを実感する

授業者の学びと授業改善のポイント

会話を続ける雰囲気づくり

完全な文ではなく単語で答えてもよい雰囲気を授業の準備段階から作ることで、気軽に英語を話せる環境を整え、英語で会話することへの自信につながられた。

正しい文法等に縛られない授業

英語の授業を通して文化の違いやアクセント(イントネーション)等にも触れながら、英語そのもののおもしろさを伝えていく。

